







 入学式・入寮式/新入留学生紹介
 p3

 新任教職員紹介
 p4・5

 人事交流教員紹介
 p5

 特集 拝啓!学校の外より
 p6・7

 4年生研修旅行
 p8・9

 新入生阿蘇研修
 p10

 2年生研修
 p11

 岱明寮だより
 p12

 新入生歓迎行事/授業参観等
 p13

 春季球技大会/シンガポール交流プログラム/卒業式・修了式
 p14

 卒業生の進路/学生表彰
 p15

 トピックス・編集後記
 p16

校長だより

福島健郎

校長就任あいさつ



本年4月、立居場先生の後任として校長に就任いたしました福島です。前勤務先は、大学評価・学位授与機構で、高専に対する認証評価や高専専攻科修了者に対する学位授与の業務にも携わっていました。同機構には、2度にわたって通算5年勤務していますが、最初の勤務の時、高専に対する認証評価制度の創設の仕事に関与しました。当時、高専をどのように評価するのか、その評価基準を検討しましたが、高専も高等教育機関であることから当然のこととして、ほとんど大学の評価基準と同一の基準とすることとし、それに加えて、中学卒業後の5年一貫教育の最初の3年間をどう評価するのか、多くの高専関係者と真剣な議論を行ったことを今でも覚えています。

実は、昨年度、同機構で有明高専の評価を行いました。私がこちらに赴任することになろうとは思ってもいませんでしたが、本校の評価結果は、昨年度評価を受けた他高専と比べても、全般的に大変良い評価結果になっています。特に大きな改善点の指摘もなく、教育上の様々な工夫や進路の状況、研究活動、地域貢献活動などの取り組みに関して、優れた点として数多くの指摘を受けました。これも、これまでの教職員と学生諸君の努力、関係各方面のご支援の賜物と敬意を表したいと思います。

また、大学評価・学位授与機構では、専攻科修了者に対する学位の審査方法の見直しにも着手しました。これは長い間の検討課題でしたが、高専関係者の要望を踏まえ、専攻科修了者に対して円滑に学位が授与できるよう、現在、見直し作業を行っており、早ければ本年度中にも見直し方針が示されるのでは

ないかと期待しています。

今年は、本校創立50周年という記念すべき年です。11月9日には記念式典を挙行する予定です。50年にわたり、社会に求められる有為な技術者の養成という基本的な使命は不変であり、本校の卒業生は、社会からも高く評価されています。しかし、産業における技術の急速な高度化、社会経済のグローバル化等に伴い、ものづくり技術のイノベーションを担う創造的技術者や世界で活躍できる技術者など、社会が求める技術者像は変わってきています。これらの社会から期待される技術者になるためには、まず、技術者としての基礎・基本と語学力を含めた幅広い教養をしっかりと身に付け、その上で、高専の特徴である実験・実習等を通して、応用力、課題解決能力等を獲得していくことが重要です。

学校においても、これまで本校が築き上げてきた 良い意味での伝統を大切にしつつ、変化する社会の 要請に応えて、より良い学校にするためにはどうした らよいのか、教職員はもちろんのこと、学生や保護 者、卒業生、地域の方々の意見にも耳を傾け、真剣に 検討していきたいと考えています。



入学式・入寮式

4月5日(金)

4月5日(金)、第1体育館において、平成25年度入学式が行われました。本科には、209名の新1年生と13名の4年次編入生、および、1名の3年次編入留学生の計223名が、専攻科には20名が入学しました。入学生を代表してC科の上田哲也君および生産情報システム工学専攻の下釜光平君による宣誓がありました。

また12時10分から、今年度は第1体育館において、入寮式が行われ、86名の新入生が入寮しました。

新入生の皆さんが、これから充実した学校生活を過ごせることを 祈念いたします。 (広報室 坂西文俊)









新入留学生紹介

3C ヒラス(ヒラス トゥメガス マナル)

私はインドネシアから来たヒラスです。今、有明高専の物質工学科の3年生です。

インドネシアについて少し紹介したいと思います。インドネシアは島国で東南アジアにあります。インドネシアは赤道にありますので1年中温かいです。面積は約194万平方km (日本の約5倍)で人口は約2億人(世界第4位)です。また、気候は雨季と乾季だけです。インドネシアには様々な民族があります。民族によって言語や衣装などが違います。民族が違いますけれども、みんながお互いに尊敬します。

有明高専に留学していて、勉強のことはもちろん、親しい友人を作ろうと思っています。これからよろしくお願いいたします。



留学生歓迎会

4月25日(木) 国際交流委員長 冨永 伸明

平成25年度留学生歓迎会を4月25日(木)に修己館で開催しました。今年度から3年間インドネシアのヒラス君が国費留学生で入学されて、3Cで勉強をすることになります。当日は、在校留学生、チューター学生に加え、多くの同級生、寮生が出席し、会場は賑やかでした。

校長先生、日本語の占部先生からの温かい歓迎のあいさつに続き、ヒラス君によるスピーチと母国の民族・文化の紹介がありました。民族それぞれに独自の服装、住宅様式が存在し、多民族国家における複雑性を出席者が知るよい機会にもなりました。また、母国紹介の最後には出席者参加でのインドネシア語の挨拶の唱和も入っており、大変盛り上がりました。その後、吹奏楽部の演奏に続いて、ドリンクで乾杯、歓談タイムとなり、盛会に歓迎会は終了しました。

今後、ヒラス君が元気に楽しく充実した高専生活を送ってくれることを祈念します。











新任教職員紹介

今年度、本校に着任された7名の教職員の方々に、次の4つの質問に答えていただきました。

Q1 本校に来る前は? Q2 高専あるいは本校学生の印象は?

03 趣味は? 04 抱負を一言



ゴーチェ ロヴィック(GAUTHIER LOVIC ERIC) 電子情報工学科 准教授

- A1 九州大学のシステムLSI研究センターで特任准教授をしていました。計算機アーキテクチャとコンパイラに関する研究を行っていました。以前、フランスで教育助手を行っていました。
- A2 自然で明るい学生が多いと感じがします。大学生と比べたら、高専学生は質問をよく尋ねますので、授業は生き生きです。
- **A3** 現在の趣味は映画鑑賞、読書と散歩です。フランスに住んでいた時、山登りをよくしました。 これから改めて、そろそろ山登りをしようかと思っています。
- **A4** 九州大学の時、応用研究を多く行っていましたが、やはり、教育をもっとしたいと思いました。 これから、過去の経験を学生に伝えられることを願っていますし、同時に学生の指導からい ろいろを学びたいです。



遠藤 真一 総務課 総務課長

- A1 熊本高専八代キャンパスで学務課長をしていました。
- **A2** これまでと違い学生さんと接する機会が無くなり、印象を書くことができないのが非常に残念です。校舎は高台にあるため、周囲に景観を邪魔する物がないのは気持ち良いですね!
- **A3** 昼休みに学生さんとサッカーをしていましたが、昨年5月に膝が駄目になってからはゴルフにはまってます。
- **A4** 学生課での仕事が長く、総務課の仕事は初めてですが、早く学校に慣れみなさんのお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



芦江 睦夫 総務課 課長補佐(財務担当)

- A1 熊本大学学生支援部学務ユニット学務企画チーム総務担当係長として、学生支援部・大学教育機能開発総合研究センター・保健センターに関する予算・調達及び部内の連絡調整等の業務を行っていました。
- A2 教職員が一体となって各種行事に取り組む姿が素晴らしく感じました。
- A3 ゴルフ・スポーツ観戦。
- A4 本校のために、教育・研究の質の向上に支援ができるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



川村 里絵子 総務課 人事労務係

- A1 有明高専からの出向で、九州大学工学部等総務課に勤務していました。
- **A2** 2年ぶりの高専ですが、学生の元気な姿、気持ちのいいあいさつは変わっておらず、嬉しく思っています。
- A3 映画鑑賞、主に邦画を見ています。
- **A4** 久しぶりに学生の元気な声やチャイムの中で仕事をできることに、毎日、うれしさを噛みしめながら仕事をしています。早く仕事に慣れて、お役に立てるように頑張ります。



福田 英美 学生課 図書情報係

- A1 九州大学付属図書館にいました。
- **A2** 図書館がきれいで、ブックハンティングなどで選定された面白そうな本がたくさんあるなぁ… と思いました。
- A3 読書と茶道。好きな作家は辻村深月です。
- A4 利用しやすい図書館づくりに励みたいと思います。



松崎 誠一 学生課 寮務係

- A1 久留米高専で、事務部長として、学生支援などの学校運営に関わる仕事を行っていました。
- A2 キャンパスに学生の皆さんの"おはようございます"、"こんにちは"と大きなあいさつの声が溢れており、訪問者など多くの方々からたいへん良い印象を受けていると思います。
- **A3** 下手なゴルフと料理です。料理に関しては、自分で食べるためではなく、孫や友人達に食べてもらうために作っております。
- **A4** これまでの30数年間の学生支援業務についての知識と経験を活かして、学生の皆さんのお役に立てられるよう、頑張りたいと思っております。



渡辺 弘昭 教育研究技術支援センター

- A1 三井三池製作所に勤めていましたが、定年退職後は畑作業等をしていました。
- A2 有明高専は、桜やツツジそして今は新緑に囲まれ、すばらしい環境にあり実習工場等の設備は 工場を感じさせる充実ぶりだと思います。今までに、会った皆さんに温かく迎えていただき感謝 しております。学生は、素直で親しみ易く何事にも一生懸命に取り組んでいるように思います。
- A3 柳川のスポーツクラブに会員として通っており、水泳は15年になり皆さんとの会話を楽しみ にしています。
- **A4** 慣れない面がありますが、学生とものづくりの楽しみを感じれるように安全面に注意し頑張りたいと思います。

人事交流 教員紹介

今年度、人事交流教員として、他高専から本校に着任された江頭先生と波止元先生、および、 久留米高専から戻られた松野先生に、次の2つの質問に答えていただきました。

Q1 2つの高専の違いは?

Q2 2つの高専の学生の違いは?



江頭 成人 電子情報工学科 教授 (久留米高専から着任された)

- A1 校舎間の渡り廊下と学科の事務室があること、教員室や実験室が学科ごとにまとまっていることです。久留米高専では渡り廊下や学科事務室がなく、教員室や実験室が多くの建物に分散していますので、学生は風雨にさらされながら授業に行ったりレポートを提出したりしなければなりません。一方で、生活の場である寮に渡り廊下がないことに驚きました。
- A2 寮生数の違いが大きいようです。久留米高専の寮生は約1割で学校全体ではその影響は小さいのですが、こちらは3割ですので大きな声で挨拶するという寮の雰囲気が学校全体にわたっています。同様に学生への生活指導の方法も違ってくるのだと思います。授業中の態度は同じですね。



波止元 仁 一般教育科 准教授 (東京高専から着任された)

- A1 有明高専は自然に囲まれて静かな場所にあるため、学問や部活動に没頭して学校生活を送る上でとても良い環境にあると思います。東京高専は高尾山近くに位置していて、都内の中でも比較的自然が傍にあります。有明高専と東京高専との違いの幾つかに、チャイムや学生を呼び出す際の校内放送が挙げられます。東京高専にはkinq(緊急)と呼ばれる緊急時に学生や教職員へ配信するメールシステムがあり、学生を呼び出すときは多くは担任経由ですがkingを使うこともしばしばあります。
- A2 有明高専と東京高専の学生は同じような良い学生だと思います。すれ違うと元気よく挨拶をしてくれることはとても良いことだと思います。素直で真面目な学生が多いことも両方の高専に共通していると思います。学生の皆さんへ、質問などがあるときは遠慮無くどんどん来てください!



松野 哲也 電子情報工学科 教授 (久留米高専から戻られた)

- A1 久留米高専は「大学」的、有明高専は「高校・体育会系」的だと思います。たとえば、久留米高専ではチャイムや校内放送や朝校門立ちやSHRがありません。授業は全て100分で1日4限です。一方、有明高専では、教員が学科事務室で雑談する中などで教育問題や学生の状況に関する情報交換が日常的に行われ、学生指導が手厚いように思われます。また新任歓迎会などでは全教職員が一体となって盛り上がります。
- **A2** 違いはあまりありません。教員にフランクに接する学生が多いなど、のびのびとした明るい雰囲気は久留 米高専も有明高専も同じです。英語力がイマイチであることも同じです。あいさつの頻度や体育祭での一 体感は有明高専の方が勝っています。

特集が拝啓!学校の外より

今回の特集では、学校の外でさまざまな活動をした4組の学生の皆さんに、その経験や経験から学んだこと等を記してもらいました。

外に出かけてみませんか

5M 中川 陽平

昨年1年間学校を休学して海外を自転車で旅してきました。海外に行ってみようと思ったきっかけは純粋な好奇心からです。海外ではどんな人がどんな生活をしているのか知りたいと思いました。自転車旅行だけで終わらず、興味のわいた中国のことをもっと知りたいと思い、帰り際に上海で中国語を勉強して帰国しました。

海外では言葉がわからないことで不自由をし、嫌な思いをすることも少なくありません。しかし、それも含め日本にはない刺激に溢れていて些細なことに一喜一憂します。皆さんも実際に出かけてみて、それを自分で感じてみませんか?

友達と遊ぶのもいいと思いますが、外に出かけてみたり 自分の知らないところに飛び込んでみたりすることで、より 新しい発見があり面白いと思います。オススメは海外の同年代の学生と友達になることです。同じ年代の人と話すことは楽しいですし、語学を勉強するきっかけにもなると思います。

一人になったからこそ、人との関係の大切さがわかった と思います。「小さな友達の輪が、世界の大きな平和に繋 がる」といいですね。

(参考)

- ・旅行ガイドブック: 『地球の歩き方』→観光地の紹介、交通手段、値段、など必要な情報がしっかり載っています。
- ・安い交通手段 →日本国内なら青春18切符 (JRの5日乗り放題券)、高速バスが便利です。海外へは、佐賀空港や福岡空港から格安航空会社の飛行機が飛んでいます。







語学留学で得たもの

41 三島 聖志

私は1年間、語学勉強のため、イギリスへ行きました。イギリスで生活していく中、私はさまざまな人達と出会い、助け、助けられながら、この1年間ですごく成長させてもらえたと感じます。切実にそう思うのは、友達、親がいることへの感謝ができるようになったことです。

私がイギリスで生活を始めて3ヶ月目のことです。イギリスでの生活にも慣れ始めて、英語も少しずつ使えるようになり、友達ができ始めた時でした。初めは、風邪からでした。その時は薬を飲

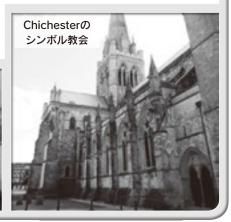
んでさえいれば治ると思い、薬局で風邪薬を買い、その錠剤を飲みました。しかし、風邪は一向に治らず、ひどくなるばかりで、結局40度近い熱がでて、目眩・頭痛・吐き気で起き上がれない状態が一週間続きました。一週間以上学校を休んでいる私に、友達が心配して来てくれました。国が違うため、看病の仕方も少し違いましたが、私の身の周りのことを全部してくれ、風邪が治るまでほぼ毎日訪ねて来てくれました。看病をしてくれたことに感謝なのですが、本当

に困った時、駆けつけてくれて、一緒にいてくれる人がいることの感謝、大事さ を改めて思いました。

よく何のために、留学したのと尋ねられるのですが、その問いには「英語を勉強しに行きました。」としか、答えられません。しかし、それとは別に、貴重な体験ができ、私は留学をしたことは間違ってなかったと言い切れます。







「第18回高専シンポジウム in 仙台」に参加して

4M 堤 翔太

今回、私たち3人(筆者、副島健人、前田脩成)は、1月に仙台高専で行われた「第18回高専シンポジウムin仙台」に参加しました。高専シンポジウムとは、研究した専門分野を学生や教員の方々が発表する場で、私たちは工学教育の分野で口頭発表しました。

このシンポジウムに参加することになったきっかけは、去年の夏に行った「課題研究」です。一般教育科物理学の先生方と各学科の3年生の希望者で、レゴブロックを加工し、超伝導実験を老若男女に楽しく、そして簡単に理解できるような教材を開発・作成することを目指しました。「オープンカレッジ」や「大牟田エコタウンフェア」でポスター発表等を行い、改めて「超伝導」の難しさ、人に教える難しさなどを痛感しましたが、普段、触れる機会が少ない液体窒素や誰もが知っているレゴを用いることで、興味をいだ



いて真剣に聞いてもらえました。その後、「高専シンポジウム」のお誘いをいただき、3人で参加することにしました。3人とも初めての経験で、慣れないながらも一生懸命、発表用の資料の制作を頑張りました。



いざ仙台に行くと緊張感もたかぶりました。発表本番は、相当練習したにもかかわらず、その場の雰囲気に飲み込まれ全然思い通りにいかず、発表直後は「もうちょっと声が出せたんじゃないのか」、「こういう言葉で言えたんじゃないのか」などやりきれない気持ちで一杯でした。しかし、先生から「初めてにしては良かったよ」など励ましのお言葉をいただき、意味のある発表になったと感じました。新しい挑戦ばかりでつらかったですが、新しい知識を覚え、皆で協力できたことは絶対に意味のあることだったと思います。

仙台市内に行く機会もあり、牛タン、仙台城(本場の伊達政宗像)、黒漆の大崎八幡宮、雪遊びを満喫して帰りました。

高専女子フォーラムに参加して

5C 松尾 あい 7A 竹本 有里 5C 松永 真生子 3A 空閑 姫都

私たち4人は、3月26日(火)に東京の学術総合センターで開催された「2012年度全国高専女子フォーラムに参加し、「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信事業」に関する活動内容の紹介、専攻科の特別研究、有明高専女子学生の会「Å-Tech.」の活動についてポスター発表を行いました。このフォーラムには民間企業関係者をはじめとした300名を超える参加者があり、高専の女子学生の参加は89名でした。

「高専女子ブランドの発信事業」の目的は、企業や女子中学生に女子高専生の魅力について知ってもらうことであり、私たちは企業向けの『高専女子百科』や女子中学生向けの『高専女子百科Jr.版』などを製作してきました。フォーラム前日に事業に携わった9高専による研修会が行われました。この研修会で、私は、本校で行った女子中学生向けの様々なイベントの紹介、『高専女子百科』や『高専女子百科Jr.版』の製作で工夫した点をまとめ、とても広い一橋講堂のステージ上で発表しました。他高専の活動内容についても発表され、興味深い活動を知ることができ、いい刺激

を受けました。

フォーラム当日には、来場された企業関係者や高専関係者の方々に『高専女子百科』の紹介をしました。『高専女子百科』を製作した理由や製作過程で大変だったこと、工夫したことなどを発表したのですが、最初はうまく話すことができませんでした。しかし、何度か発表するにつれて、自分の言葉でうまく説明することができるようになりました。また、普段会うことのない他高専の校長先生や高専機構の方と接し、貴重なご意見を伺うことができました。

春休み中に、フォーラムの発表資料を作成するときは大 変苦労しましたが、無事に発表できて、ほっとしました。

このフォーラムに参加したことで、これまで行ってきた自分の活動を振り返ることができ、多くの方から今後についての有意義な話をたくさん聞けたので、非常に良い経験となりました。また、多くの方に女子高専生のことを知っていただけたのではないかと思います。

これからもこの活動を続けていきますので、ご支援をお 願いいたします。









研修旅行報告

4M 竹田 宗矢

(株)牧野フライス製作所 厚木事業所 東燃ゼネラル石油(株)川崎工場

(独)JAXA筑波宇宙センター

(株)IHI横浜第一·二工場

私たち4年機械工学科は、神奈川県と東京都へ行きました。

1日目は福岡から空路で羽田空港へ向かい、(株)牧野フライス製作所厚木事業所へ行きました。牧野フライスではNC工作機やマシニングセンタの製造過程を見学しました。2日目は東燃ゼネラル石油(株)川崎工場とJAXA筑波宇宙センターに行きました。東燃ゼネラルは工場がとても広く、バスで見学しました。JAXAでは宇宙服の構造や宇宙での生活の仕方や無重力について学びました。また、テレビや漫画などで見たことある大きなロケットが印象的でした。3日目は自由行動で各グループで行くところを決めて、東京の街を楽しみました。4日目は(株)IHI横浜第一・第二工場へ行きました。IHIでは原子炉圧力容器の製造を見学し、製造している物のスケールの大きさにとても驚きました。

今回の研修ではものに対する考え方や工夫の仕方を学べたと思います。とても充実 した研修になりました。





4年生 研修旅行 5月14日(火)~17日(金)





研修旅行を終えて 41 吉川 勇樹

(株)日立製作所 神奈川事業所 (独)JAXA調布航空宇宙センター 東芝科学館

全日本空輸(株)機体メンテナンスセンター

研修旅行を終えて、まず、自分の将来に対しての視野が広がったように感じました。 1日目は日立へ行き、日立の歴史や製品の見学をさせていただきました。また、高専 出身の先輩から、高専入学から現在までの貴重な話を聞かせていただき、将来への 見通しを立てるにあたって非常に参考になりました。2日目はJAXAへ行き、航空機 の実験モデルやスーパーコンピューターを見せていただき、日本の技術の進歩を感じ ました。次の東芝科学館では、昔の東芝製品を見たり、東芝の新しい技術を見ること で、こちらも昔から現代までの技術の進歩を感じることができました。この日の最後 は全日空へ行き、航空機を整備している現場を見学させていただきました。間近で 見る航空機はとても迫力があり、心に残りました。最終日は日本未来科学館へ行き、 宇宙や地球環境、ロボット技術などについて見学でき、非常に興味深かったです。ま た、自主研修やホテルなどでクラスメイトとの時間を過ごすことでより一層クラスの仲 も深まったように感じました。

3泊4日の研修旅行を通して、自分の将来への見通しも立ち、また残り少なくなった 高専生活のとても大きな思い出となりました。





シンガポール研修旅行 4C 梅木

私たち物質工学科は、研修旅行でシンガポールに行きました。

シンガポールの建物には奇抜なデザインのものがたくさんあり、自然も豊かで、とても美しい町並みだと思いました。2日目と3日目にはウッドランドサニーフーズ社とエアログリーン社を訪問しました。ウッドランドサニーフーズ社は不二製油が設立した海外拠点で、独自の技術を用いて私たちが普段から口にしている食品を陰から支えている企業であるとわかり、訪問したことで食の根幹を学ぶことができました。エアログリーン社は、野菜の栽培に土ではなく水蒸気を使って育てる水耕栽培の研究をして









実り多い研修旅行

4E 伊木田 公貴

(株)東芝 浜川崎工場 日本モレックス(株) NHK放送センター 日本航空(株)羽田整備工場

私たち4Eは神奈川・東京地区の研修旅行に行きました。

東芝浜川崎工場では変圧所で用いられる技術や構造を知ることができました。モレックスではコネクタを自社のみで製造する流れを間近で見学できました。NHKでは番組制作の裏側を垣間見つつ、高専卒の方々の率直な感想を聞くことができました。特に高専を卒業して就職することの利点についての話は参考になりました。JALの羽田整備工場では飛行機1機に数か月かけて整備している現状や設備にかかる費用などその圧倒的な規模の大きさに驚きました。

各社ごとに違った特色があり、将来の私の進路選択時に大きな影響を与えることになるでしょう。また、研修旅行中は、これまでには無い多くの時間を友人らと過ごし、様々な話題について話すことで友人らの考え方などを知ることができ、これまで以上に友好を深められたと思います。このように今回の研修旅行は私にとって実りの多いものになりました。





て無司

ウッドランドサニーフーズ マリーナバラッジ等 エアログリーン シンガポールポリテクニック校

いる企業で、この技術がシンガポール国 民の食の一端を支えているのだと実感 しました。

この研修で一番印象に残っているのは、ポリテクの学生との交流です。私は英語が苦手で会話をするとき、言葉足らずになることが多かったのですが、ポリテクの学生は僕の言いたいことを理解しようとしてくれて、国や言葉は違ってもここまで親しみを持てるものなのだと感動しました。

シンガポールを訪れたことによって日本との文化の違いを見つけることができたこの5日間は、とても有意義で楽しい思い出をたくさん作ることができました。



研修旅行に思うこと 4A 森 康貴

天保山ハーバービレッジ 大阪文化館・天保山 法隆寺、唐招提寺、東大寺 竹中大工道具館、神戸異人館等

古代の人々はどんな思いを持って建物を建てたのだろう。建築家は、何を考えてこんな形にしたのだろう。これらの疑問を抱きつつ、私たち建築学科は、関西地区の建物や街並みを見学しました。

京都・奈良の古建築見学では、教科書の写真では理解できないスケール感や重厚感を周辺の自然環境とともに体感できました。神戸異人館では、洋館が立ち並ぶ街並みや、独特の装飾が施された内部空間を味わいました。大阪では、人々が日々の生活を営む街の中に天高く聳え立つ現代建築の迫力を目の当たりにし、圧倒されました。

今回の研修旅行で、全ての疑問を解消させることはできませんでしたが、実際に自分の足で歩き、現場に立ってみることで、建物の形に秘められた思いを少しだけ感じ取ることができました。今後の学習の中で、研修旅行で解消できなかった疑問、そして、建築の持つ力や役割に迫っていきたいと思います。





新入生阿蘇オリエンテーション

5月16日(木)~18日(土)







阿蘇研修を終えて

1M 熊谷 千尋

私はこの2泊3日の阿蘇研修が来るまで期待と不安を抱えていた。なぜなら、阿蘇研修に行かれた先輩方は口をそろえて「きつい・・・」と言っていたからだ。

そして迎えた1日目。バスに乗り込み、さっそく始まった 校歌の練習。初めて聞くメロディーとその歌詞。「早く暗記 しなければ」と思う程、あまり覚えることができなかった。 そんな1日目の夜。学生会ミーティングで鳴り響いた校歌。 ハイキングの疲れすら忘れ、無我夢中に歌った校歌。

2日目はフィールドワーク。右も左も分からない大自然を 班員と散策し、一つひとつ見つけて行ったポイント。班員 との協力が試される1日と言ってもいいだろう。未だ5月と いうのに太陽が肌をじりじり焼いた。

いよいよ最終日。慣れた手つきで寝具を片付け、講話へ向かう。この2泊3日の中で、3回講話があった。どの講話も高専の特徴や高専生としての心得、そしてこれからの生活を考え直させる機会であったと思う。

この2泊3日。私を含め1年生が一番変わったことは「あいさつ」だと思う。すれ違う先生や先輩、そして友人にあいさつをする。それは当たり前のことなのについ、この前まではできていなかったからである。あいさつをして返してくれないとどこか寂しくなった。また、時間を守るということは、時間十分前に集合するということであるとわかった。常に次の行動を考え、時間前に行動するということは、集団の結束と団結を強めることだと思った。

私は、今回の研修で学んだことをこれからの学校生活から活かしていきたいと思う。例えば、講話で言われたように、目標を持って今をがんばることや、人とあったら気持ちよくあいさつをすることである。

阿蘇研修を終えて

1C 牛川 友希

阿蘇研修を通して、私が一番感じたことは、自分の意識 の甘さだった。

バスの中や夜の校歌の練習、集合など一つひとつで今までの学校生活での私の甘さを実感した。初めは余裕だとも思っていたが、団長さんや指導学生の方々の厳しさに驚いた。バスの中での校歌の練習では、誰にも負けない声を出そうとがんばった。夜の練習もあり、翌日には声がかれてしまった。1日目の仙酔峡ハイキングや2日目に行ったオリエンテーリングでは阿蘇の大自然を身近に感じることができ、とても楽しい時間を過ごした。しかし、オリエンテーリングで、班行動が今一つできなかったことが反省点だ。班をまとめることができなかったのも、班長である私の責任だと思う。また、班長としては、連絡ミスがあり、班に迷惑をかけてしまうこともあった。しかし、すべての行動において、みんなの協力もあり、スムーズに行動できたとも思う。

休み時間には、みんなとドッヂボールをして、絆を深める こともできた。

また、この3日間での講話を聞いて、勉強に対しての意識や考えも変わった。正直、今までは家庭学習が間に合っていなかったが、氷室先生の講話で危機感が出てきた。高専についても再認識できて、貴重で、充実したときを過ごした。

阿蘇研修を終えて、私は高専生としての意識、マナー、連帯感、礼儀を学んだ。厳しかった分、楽しい3日間でもあった。これからは、有明高専生としての誇りと自覚を持ち、恥ずかしくないような行動をとっていこうと強く思った。本当に有意義な研修だった。













2年生研修

















九州国立博物館(常設展)について

○展示室に入ると中の雰囲気に圧倒された。全体的に黒を基調にした床・壁・天井であり、中は 比較的暗いが、展示物には淡い光を放つスポットライトが照らされていて、心なしか、何か底知 れぬパワーを持っているように感じた。展示物は主に古代の日本で用いられていた道具や装飾 品であった。その時代ごとの生活がよくわかった。(2-1)

○中学の時に歴史の教科書で見たことがあるような文化財がたくさんあり、とても興味深かった。その中でも僕が興味をもったのは、鎌倉時代の文化財「てつはう」だ。「てつはう」とは、元 窓の際に元軍が用いた兵器の一つだが、X線CTスキャンの結果、内部には火薬の他に殺傷力を増すため、鉄片や陶器片を入れていたことがわかったらしい。このように、一見して教科書と同じようなものでも九州国立博物館に来ると教科書では習いきれないことを目の当たりにできる。(2-2)

○縄文時代からの九州と主に韓国などの諸外国に関する歴史的遺産が時代ごとに分けて置かれていた。銅鐸の役割が、鳴らす物から見る物へと変化していく様子を数個の銅鐸を並べて表現していたり、実際に触れることのできる展示物があったりと、直に歴史を体験することができた。P.S.見学時間が短すぎた。(2-5)

九州国立博物館 (バックヤードツアー) について

○地震に対する備えが万全である。地震動のエネルギーを吸収し建築物への影響を緩和する 免震構造や建築物を堅く丈夫にする耐震構造などがある。それは建物内にある国宝や重要文 化財などの貴重なものを守るためだ。内部にはそれらをさらに守る収蔵庫という場所がある。 収蔵庫は文化財にとって最適な環境を作ることができる。このような設備で安全に保管されて いることに感動。(2-2)

○まず、地震対策(免震装置)の建築関係の見学をした。警固断層帯による福岡県西方沖地震により、実際にこのシステムの免震効果が確認されたということで、これからも博物館をしっかりと守ってほしいと思った。次に収蔵庫の修復室などの展示関係の見学をした。特に、停電時に収蔵品を保存するための古来の知恵(内壁を木で覆い温度・湿度を保つ)、また、火災時の消火のための新しい知恵(窒素の消火器)という新旧の知恵で厳重に収蔵品を守る対策に感銘を受けた。これら2ヶ所とも、普段は「実際に見られない」・「テレビでしか見られない」ような博物館の裏側であり、見学できたのはとてもためになった。このようにスタッフの方が、福岡そして九州にとって重要な博物館を、収蔵品と建物を守るという観点で真剣に考えていらっしゃるのはとてもすばらしいと思った。(2-3)

班別見学について

スターバックス: 建築学科の先生方から「是非行ってみて」と言われたので、行って見てみたらとてもすごかった。 木の組み方に興味を持った。(2-1)

楼門: 奥には本殿、手前には石灯籠が脇に立ち並ぶ赤々として雅な楼門があった。門の下には御神燈がつられ、装束を着た武者像が両脇に控えていた。その御神燈の下をくぐれば、おみくじや絵馬が並び、本殿へと続く道があるわけだが、ふと振り返って楼門の方を見れば本殿側からと太鼓橋側からとでは楼門の印象がまた違って見えることに気づいた。個人的には太鼓橋側からの方がより赤が強く見えて好きだった。(2-4)

光明禅寺前庭: 見学した時は、ちょうど雨が降っていました。 軒下で雨宿りをしながら前庭を眺めていると、七・五・三の十五石で表している 「光」 の字と雨が絶妙にマッチして、何だか和のわび・さびを感じることができました。 今度行く時は、 裏庭も行ってみたいと思います。 (2-4)

研修旅行全体の感想・反省

○九州国立博物館でのエントランスと免震装置の説明を集中して聞くことができたのでよかったです。班でクイズの答えを探したり、"あじっぱ"に行ったりグループ行動を通して話したことなかったけど仲よくなれました。九州国立博物館から天満宮へ行くまでの道がエスカレーターになっていて凄かったです。天満宮では、おみくじを引いたり、梅ヶ枝餅を食べたりと楽しかったです。思い出ができました。また太宰府研修行きたいです。(2-3)

○今回の研修旅行は、まだ交流の浅いクラスメートとの交流のきっかけとなり有意義だったと思います。また、事前に研修旅行を計画する時間がお互いの意見をだす場となったことで、ある程度人柄が分かる場となり、話しやすくなりました。今後もこういった活動を続けることで仲が深まっていくと思います。(2-5)





寮務主事補 岩下 勉

寮生指導者研修会in 岱明寮

4月2日(火)、寮生指導者研修会が銀杏棟研修室にて行われました。寮生会役員をはじめ、寮務主事室、寮務委員、寮務係、合計38名が参加し、寮生遵守事項の確認、寮生会からの要望、主事室からの提案、重点目標や寮の運営方針等について、意見交換を行いました。



入寮式

4月5日(金)、第一体育館にて入寮式が行われました。1年生75名、4年次編入生9名、3年次留学生1名、専攻科1年生1名の合計86名の入寮許可後、寮務主事・寮生保護者会会長より挨拶がありました。入寮オリエンテーションでは、寮生活についての説明、寮生会役員の紹介等がありました。



今年度の重点目標

(身の回りや心の中の)

整理整頓

寮長 5M坂井君 より、今年度の岱明 寮の重点目標が寮 生総会で発表され ました。

新入寮生歓迎夕食会

4月9日(火)、寮食堂にて新入寮生歓迎夕食会が行われました。新入寮生86名が在寮生の拍手に迎えられて入場しました。歓迎会では新入寮生の自己紹介などが行われました。



4月30日(火)、新1年生に対する避難訓練および消火 訓練が行われました。階段が使えない場合の避難梯子 の利用についても確認を行いました。









新入生歓迎行事

4月19日(金) 学生会長 5M 柿原 大輝

毎年恒例の新入生歓迎行事を4月19日(金)に開催しました。先輩が温かく見守る中、新入生が大声を出して自己紹介をしました。新入生にとっては、初めて会う先輩の前で自己紹介等をすることは、これまでにない緊張だったかもしれませんが、学校や学科の雰囲気を知る良い機会となったのではないでしょうか。4年前の歓迎会で私は3人1組でマジックをした時のことを今でも覚えています。先輩や先生方に受けるかどうか緊張しながらマジックをしたことは4年経った今では楽しかった思い出となっています。

新入生の皆さん、多くの人とつながりあうために、まずは挨拶をしてみてください。きっと 幅広いつながりができて、楽しい学生生活を送ることができると思います。

今年は10月20日(日)に2年に1度の体育祭が開催されます。体育祭では学科での団結・学校全体での連携が必要になります。一人ひとりが学科の一員・有明高専の一員ということを自覚して創立50周年ならではの盛大な体育祭を作り上げていきましょう。











授業参観等

5月2日(金)、5・6限に授業参観がありました。教室に入りきれないクラスが出るほど、多くの保護者の方々に授業を参観していただきました。日頃は見ることのない実際の授業や教育の様子を

参観されて、保護者の方々はどのような感想を持たれたでしょうか。 授業参観後は、後援会総会、その後、クラスごとに保護者懇談 会が行われました。 (広報室 坂西 文俊)







防災避難訓練

5月7日(火)7限終了後、地震発生の想定で教室待機、続いて火災発生の想定で全学生・教職員がグラウンドへ避難する訓練を行いました。グラウンドでは、消防署の方による粉末消火器の操作の説明を受けた後、各学科に分かれて代表者による消火訓練を見学しました。

消防署の方から「避難時、不適切な行動が多々見受けられる」との講評を受けました。 訓練とはいえ、万が一に備えて、真剣に行動しましょう。 (広報室 坂西 文俊)





5月7日(火)

5月2日(木)





春季球技大会

5月28日(火) 体育局長 41 德島 光一

今回の春季球技大会はあいにくの雨となり、雨天時競技が開催され ました。 **最優秀クラス**

晴天時競技であるソフトボールやソフトテニスの練習に励んできた学生にとっては、これまでの練習の成果を発揮できず残念な思いをしたかもしれません。しかし、それにもかかわらずバレーボール、卓球で自熱した勝負が繰り広げられました。

今回の球技大会を通して、クラスの団結力が強まったのではないか と感じられました。

取後乃ノノへ	J	\cap
優秀クラス	5M、5E	
競技	優勝	MVP
バレーボールA	5A	播摩 憲汰
バレーボールB	専攻科	近藤 智紀
女子バレーボール	3C	江島 見佳
卓球	4E	福山 輝明







5Δ







シンガポール交流プログラム

3月17日(日)~26日(火) 国際交流委員 A科 岩下 勉

3月17日(日)~26日(火)の10日間、国際交流の一環として本校の学生15名がシンガポール・ポリテクニック校を訪問しました。

この交流プログラムを通じて、学生達はシンガポールという国を知ることができたのはもちろんのこと、シンガポール・ポリテクニック校の学生と友達になり、多くの交流を行ってきました。学生にとって国際的な視野を広げるための貴重な経験であり、今後の自己の成長への大きなモチベーションになったことと思います。









卒業式・修了式

3月15日(金)

3月15日(金)、平成24年度卒業式 および専攻科修了式が行われました。

M科32名、E科42名、I科32名、C科32名、A科39名が卒業、生産情報システム工学専攻18名、応用物質工学専攻5名、建築学専攻5名が修了しました。卒業生・修了生の皆さんのこれからのご活躍を祈念いたします。

(広報室 坂西 文俊)





卒業生・修了生の進路

械 I 学 私

H

I ¥

子情 報 * 科 物

学

建 (築学

攻

花王(株) 九州電力(株) (株)デンソー北九州 ニプロ(株) (株)マルハニチロホールディングス

(株)安川電機 九州大学工学部 川崎重工業(株) セイコーエプソン(株)

(株)東芝社会インフラシステム社

日本車輌製造(株) 三菱重工業(株)長崎研究所 ヤンマーグリーンシステム(株) 豊橋技術科学大学工学部

(株)カンセツ ダイキン工業(株) トヨタ自動車(株) 日立建機(株) 村田機械(株) ヤンマー建機(株) 関東化学(株) (株)タクマ

(株)トヨタプロダクションエンジニアリング 本田技研工業(株)

(株)明治九州工場 有明高専専攻科

NOK(株) キリンビール(株)福岡工場

JFEスチール(株)西日本製鉄所 (株)中央エンジニアリング 東海旅客鉄道(株) (株)ニチゾウテック

富士ゼロックス福岡(株) 矢崎総業(株) 有明高専専攻科

(株)NTTファシリティーズ九州 (株)クボタ枚方製造所 (株)ソフトサービス

中国電力(株) 東燃ゼネラル石油(株)

日本たばこ産業(株)九州工場 富士テクノサービス(株) (株)安川電機

九州工業大学工学部

関西電力(株)

独立行政法人国立印刷局 ダイキンエアテクノ(株) (株)ティー・エス・ジー 西日本プラント工業(株)

パナソニック環境エンジニアリング(株) (株)三井三池製作所

矢部川電気工業(株) 熊本大学工学部

九州電力(株)

サントリープロダクツ(株) 大和製罐(株)九州工場 電気化学工業(株) 西日本旅客鉄道(株)

日立アイ・エヌ・エスソフトウェア(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株) ユニバーサル造船(株)有明事業所 豊橋技術科学大学工学部

旭化成(株)

(株)エヌ・ティ・ティネオメイト グリー(株)(GREE) ダイハツ工業(株) (株)東洋新薬

(株)富士通九州システムズ 九州工業大学情報工学部

(株)有明ねっと.こむ

(株)NTTファシリティーズ九州 栗原工業(株)

大和製罐(株) 日本電信電話(株)(NTT西日本)

富士電機(株) 佐賀大学理工学部 NECネッツエスアイ(株)

キヤノン(株) KCCSモバイルエンジニアリング(株) TDCソフトウェアエンジニアリング(株)

(株)日立エンジニアリング・アンド・サービス 三菱化学エンジニアリング(株) 宫崎大学工学部

NOK(株)

熊本製粉(株) 信号電材(株) 東芝(株)

富士ゼロックス福岡(株)

有明高専専攻科 熊本大学工学部

宇部興産(株)

昭和電工(株)川崎事業所

大日精化(株) (株)日本触媒

三井化学(株)大牟田工場 ユニチカ(株)

東京農業大学生物応用学部

関西電力(株)

第一高周波工業(株) 武田薬品工業(株) ネスレ日本(株) 室町ケミカル(株) 有明高専専攻科

極東石油(株) 第一三共ケミカルファーマ(株)

DIC(株) 不二製油(株)

大木町役場

(株)ヤクルト本社佐賀工場 熊本大学工学部

豊橋技術科学大学工学部

熊本製粉(株)

ダイキン工業(株) 日本イットリウム(株) マルボシ酢(株) 雪印メグミルク(株) 佐賀大学理工学部

宫崎大学工学部

東京農工大学工学部

旭化成(株) (株)縁 河上信行建築事務所

(株)河村デザイン 五洋建設(株) (株)ザイマックスマネジメント 清水建設(株) 新菱冷熱(株)

(有)武末鉄工所 東京ガス(株) 西松建設(株) (株)ピーエス三菱 (株)フジタ 三菱化学エンジニアリング(株)

若築建設(株) 有明高専専攻科 鹿児島大学工学部 熊本大学工学部

関西電力(株) 三機工業(株) 高砂熱学(株) 東レ建設(株) (株)日立建設設計 山本設備工業(株) 大分大学工学部 山口大学工学部

鹿島クレス(株) (株)キユーハウ 清水建設(株) (有)武末鉄工所 戸田建設(株) (株)日立ビルシステム

(有)夢和詩生伝統建築研究所 岡山県立大学デザイン学部

アイシン・エンジニアリング(株)

(株)大藪組 (株)ソフトサービス (株)東洋新薬 九州工業大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学 早稲田大学大学院

旭化成(株) 熊本製粉(株) ダイダン(株)

日東電工(株)豊橋事業所 九州大学大学院

NSプラント設計(株) (有)GA総合建築研究所

DIC(株) 富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株) 東京工業大学大学院

オークラ輸送機(株) (株)新日南京浜事業所 (株)ディー・エス・テック (株) 朋雷舎

豊橋技術科学大学大学院

	成績優秀賞	学会賞
機械工学科	小川 知也	森本 幸宏 (日本機械学会畠山賞)
電気工学科	坂井 靖広	金子 大介 (電気学会九州支部長賞)
電子情報工学科	下釜 光平	東田 紗季 (電子情報通信学会九州支部長賞)
物質工学科	北原 一利	北原 一利 (日本化学会九州支部長賞)
建築学科	西村 拓也	角田 雅季 (日本建築学会九州支部長賞)



有明次世代科学クラブ成果発表会

M科 坪根 弘明

平成24年度から有明高専ではJST主催の次世代科学者育成プログラムに全国高専で初めて採択されており、環境問題の解決を担うエリート科学者養成プログラム「有明次世代科学クラブ」を実施しています。昨年度の受講生は中学1年生10名で、3月23日(土)に1年間の取組(平成24年度テーマ:太陽光発電に関する取組)に対する成果発表会を本校にて開催しました。当日は、多くの方々が出席され、活発な質疑応答がなされました。2年目の活動もご期待ください。





昨年9月、長崎大学で開催された電子情報通信学会九州支部会において、164人が発表した第20回学生講演会で、当時5Eの荒牧恵悟君が発表にた「8ビットD/A変換機に用いる低電圧カレントミラー」に対して、2月末に講奨励賞がおくられました。

71甲斐君 高専フォーラムで

講演奨励賞



昨年11月、熊本高専熊本キャンパスで開催された第11回電子情報系高専フォーラムにおいて、「表面プラズモン共鳴 (SPR) 現象理解のための数値計算」というテーマを講演した当時6Iの甲斐郁矢君が、2月に、とくに優秀な発表者に贈られる講演奨励賞を受賞しました。

4| 國﨑君、4| 日髙君、4| 川添君、 佐賀ビジネスプランコンテストで金賞

1月末に開催された第8回佐賀ビジネスプランコンテストにおいて、当時3Iの 國崎恒成君・日髙大成君・川添浩太朗君のプラン「剣道用靴下ーより安全な剣 道を一」が金賞を受賞しました。



7| 井上君、7| 熊野君 LS| デザインコンテストで敢闘賞受賞

大学や高専から23チームが参加した昨年度のLSIデザインコンテストにおいて、当時6Iの井上優良君・熊野修平君(・当時5Iアマー君)のチームが、3月に琉球大学で行われた最終選考会で、敢闘賞を受賞しました。



編集後記

卒業生を送り出し、少しさみしい気持ちになったのもつかの間、4月にはまた新しい仲間、 教職員が増えました。阿蘇オリエンテーションや研修旅行、球技大会などを経て、そろそろ 新しい生活に慣れてきたころでしょうか。今年は体育祭もありますね。

これから試験や進路のこと、色々なことで悩むこともたくさんあるかと思います。でも、日々気付かないうちに、友達とのささいな会話や研究、部活動、学校行事などで、楽しさや達成感を感じることがたくさん起こる一年になるはずです。ひとつひとつの気持ちを大切に、向上心やリーダーシップをもって団結してがんばっていってください。(広報室 八頭司 由紀)

有明高専だより 第140号

平成25年6月19日

編集:有明高専広報室 発行:有明工業高等専門学校 〒836-8585 大牟田市東萩尾町150 TEL 0944-53-8861 (学生課) http://www.ariake-nct.ac.jp/

花咲く技術を-Here are Lights-

